

[論文]

大分県立芸術文化短期大学における初級中国語教育についての一考察  
—学習実態の調査報告から—

A Study on Elementary Chinese Education at Oita Prefectural College of Arts and Culture  
: From an investigation report on the actual learning situation

許 挺 傑

Xu TingJie

大分県立芸術文化短期大学

研究紀要 第54巻

2017年3月

[論 文]

# 大分県立芸術文化短期大学における初級中国語教育についての一考察 —学習実態の調査報告から—

A Study on Elementary Chinese Education at Oita Prefectural College of Arts and Culture  
: From an investigation report on the actual learning situation

許 挺 傑  
Xu Tingjie

キーワード：アンケート調査、短期大学、初級中国語、学習実態

## 1. 本研究の背景と目的

中国経済の成長に伴い、日本で中国人観光客による「爆買い」という言葉が流行語大賞に選ばれるほど、日本経済に対する中国経済の影響がますます高まっている。そんな中、日本の大学での中国語履修者数も増加の一途をたどっている。本学においても、多数の中国語授業を開講している。例えば、1年次の学生には、中国語Ⅰa（前期）、中国語Ⅰb（後期）、中国語コミュニケーション（後期）を、2年次の学生には、中国語Ⅱa（前期）、中国語Ⅱb（後期）、検定中国語演習（前期）などの授業を開講している。中国語Ⅰa、bと中国語Ⅱa、bは全学共通の科目であるということもあり、毎年多くの学生が受講している。

本稿は、本学で初級中国語を受講している日本人大学生を対象に、中国語学習に関するアンケート調査を実施し、学生たちの学習実態を明らかにし、今後の教育改善や授業展開に役立てようとするものである。

## 2. 研究の方法

本研究で用いた調査アンケートは、王(2011)をもとに、本学の授業開講の実情を踏まえ、新たに作成したものである<sup>1</sup>。

アンケートは、学生の学習動機や、学習実態、学習目標、今後の学習継続意欲などを聞く17問の設問からなっている。

アンケートは、2016年度後期授業1回目の授業中に実施し、中国語Ⅰbを受講中の学生96名、中国語Ⅱbを受講中の学生24名、計で120名の学生から回答をもらっている。

---

<sup>1</sup> 詳細は付録のアンケート資料を参照されたい。

### 3. 学習実態に関するアンケート調査

この節では、2節で述べたアンケート調査の結果を述べる。各設問とそれに対する回答をまとめると、次のような結果になる。

設問1は、学生たちがいつ中国語の勉強を始めたいと思ったのか、その時期について聞いている。表1を見るとわかるように、入学後に中国語の勉強を始めたいと思った学生が7割いるのに対し、入学前からすでに中国語を勉強したいと思っていた学生も3割に上っている。この割合は1年生と2年生の間で大きな違いはない。

設問1、あなたはいつから中国語を勉強したいと思いましたか？

表1 中国語学習を始めたいと思った時期

項目	1年生	割合	2年生	割合	全体	割合
①入学前 <sup>2</sup>	30	31%	6	25%	36	30%
②入学後	66	69%	18	75%	84	70%
合計	96		24		120	

筆者は以前の勤務大学でも同じような質問紙調査を行っているが、以前の勤務大学では、福祉・保育・介護分野の人材育成を主軸にしているためか、入学前から中国語を勉強したいと思っていた学生が1割にとどまっていた。しかし、現在の勤務大学は、国際総合学科という学科があるほど、外国語や国際関係の教育に力を入れており、入学してくる学生も当然、ある程度外国語関係の勉学意欲が強い学生が多くいることも容易に想像できる。このため、入学前から中国語を勉強したいと思っていた学生の割合も高くなっていると推測できる。

それでは、学生たちは、なぜ中国語を勉強しようと思ったのであろうか。これについては以下の設問2で調査している。

設問2、あなたはどのようにして中国語を勉強したいと思いましたか？

表2 中国語勉強の理由

項目	1年生	割合	2年生	割合	全体	割合
①先輩の勧め	20	15%	1	3%	21	13%
②中国文化	24	18%	13	38%	37	22%
③就職活動	39	30%	6	18%	45	27%
④将来の仕事	11	8%	1	3%	12	7%
⑤中国経済	3	2%	1	3%	4	2%
⑥中国留学	6	5%	0	0%	6	4%
⑦友人親戚	4	3%	1	3%	5	3%

<sup>2</sup> スペースの制限があるため、表の項目で使っている表現は、実際のアンケートで用いている表現とは異なり、略したものを使用している。これ以降の表も同じである。

⑧その他	24	18%	11	32%	35	21%
	131 <sup>3</sup>		34		165	

表2を見るとわかるように、一番多い理由は、③の「就職活動に役に立ちそうだから」である。その次が②の「中国の文化に興味を持っているから」と⑧「その他」である。論文の冒頭でも述べたように、日本経済に対する中国経済の影響力が増す中、大学において、ひとまず中国語を勉強しておき、将来就職の際に何らかの役に立つであろうと思っている学生が多いことが容易に想像できる。とはいえ、卒業後に本格的に中国語を活かして仕事をしたいと思っている学生（④7%）は多くないことも留意すべきであろう。

そのほか、1年生と2年生の間で、注目すべき相違点はいくつかある。1つは、③と②に関して、1年生と2年生で逆転している。1年生は、③の「就職活動に役に立ちそうだから」が一番多い（30%）のに対し、2年生は18%である。逆に、②の「中国の文化に興味を持っているから」という項目において、1年生は18%であるのに対し、2年生は38%である。本学では、1年生の中国語Ⅰa、bは外国語科目として、卒業要件の必要なものであるため、多くの学生が履修するようになっているが、2年生の中国語Ⅱa、bはそのような性格のものではなく、1年間の試練を経てなお継続して勉強したいと思った学生が履修している。その学生たちの勉強理由が③を越えて、②が多く選ばれているようになっているのは実に興味深い。

②の「中国文化に興味を持っているから」という動機付けと、③の「就職活動に役に立ちそうだから」という動機付けは、性質的に異なっている。1つは、学習者の内なる興味関心からの動機付けであり、1つは、語学力をつけ、何かの活動に役立てたいというものである。どちらの動機付けが外国語の習得により効果的かは先行研究でも意見の分かれる点であるが、学習が進むにつれ、それに応じて、学習の動機付けも変わってきているということであろう。

また、上記の①～⑧までの動機付けを「積極的な動機付け」と「消極的な動機付け」<sup>4</sup>という視点から見た際に、①の「先輩に勧められたから」という項目は「消極的な動機付け」に相当するであろう。しかし、①を選んだ学生は、全体的に13%しかなく、項目⑧の「その他」は内容が多岐に渡るため、考慮外にしても、やはり6割以上の学生は、中国語学習を通して、何かを得ようとする積極的な動機付けで中国語を履修していることがわかる。

このように、中国語や中国を専門的に勉強しているのではなく、教養科目あるいは第二外国語科目としての中国語を勉強している、今回の調査協力者の6割以上の学生が積極的

<sup>3</sup> 合計が学生の人数を越えるのは、複数選択をしているためである。ここでは、①～⑧の項目がそれぞれどれほど選ばれているかを見ている。これ以降の表も同じである。

<sup>4</sup> 「積極的な動機付け」か「消極的な動機付け」かという視点で見たとき、今回の調査で使用している項目の殆どが「積極的な動機付け」という分類になることを留意されたい。つまり、両者の項目数が均等でないということがあるため、偏った分析結果をもたらしている可能性は十分にある。この点は、今後このような調査を行う際に留意すべきものである。

な動機付けで授業を履修してくれていることは大変喜ばしいことである。教員はその6割以上の学生の動機付けを最大限に利用し、教育効果を高めていく必要があると同時に、如何に消極的な動機付けで履修している学生の学習意欲を高め、授業終了時に、単位の取得以上の喜びと成果をもたらすかが重要な課題であると考ええる。

次は学生たちが中国語の何を勉強したいかという設問について見ていこう。

以下の表3を見るとわかるように、全体的に最も多く選ばれたのは①の「中国語会話」であり、1年生と2年生の間で相違は見られない。つまり、初級中国語クラスにおいても、実際のコミュニケーション志向が高く、教員は授業準備や授業進行の際にはこの点を十分に考慮する必要があるだろう。そして、①の後には、④の「中国語読解」と②の「中国語文法」、③の「中国語聴解」が続く。

設問3、あなたは中国語の「何」を勉強したいと思って、この授業を受講したのですか？

表3 勉強したい中国語の内容

項目	1年生	割合	2年生	割合	全体	割合
①会話	79	44%	22	42%	101	43%
②文法	30	17%	6	11%	36	15%
③聴解	21	12%	9	17%	30	13%
④読解	34	19%	12	23%	46	20%
⑤情報	16	9%	3	6%	19	8%
⑥その他	1	1%	1	2%	2	1%
合計	181		53		234	

このことから、本学のような短期大学において、中国語授業の時間数が制限されている中で、効率よく、かつ着実に知識の吸収と運用を促進するようなカリキュラムを考える必要があると思われる。

幸いに以下の設問4の回答からもわかるように、学生たちが実際に学びたい内容と現在の学習成果のギャップはあるかという設問に対して、9割以上の学生がギャップを感じないと回答してくれている。つまり、現行の中国語授業でもある程度学生たちのニーズにこたえられているということであるが、お世辞の部分があることも否めないため、学生たちの本音をどう聞き出すかということを考えつつ、現在ギャップを感じていると答えてくれた学生たちの声<sup>5</sup>にもしっかりと対応できるようにしていきたい。

<sup>5</sup> 例えば、もっと文章を読みたいとか、中国語の音楽や映画などを見たいなどである。

設問4、実際に学びたい内容と現在の学習成果のギャップはありますか？

表4 学習成果とのギャップ

項目	1年生	割合	2年生	割合	全体	割合
①なし	91	95%	23	96%	114	95%
②ある	5	5%	1	4%	6	5%
合計	96		24		120	

次は、実際に中国語の授業を受講してみて、学生たちが難しいと感じた部分とそうでない部分はそれぞれどのあたりになるのかを見ていこう。

以下の表5を見るとわかるように、学生たちが最も難しいと感じている部分は、①「中国語の発音」(61%)と③「中国語の聴解」(19%)である。この2項目をあわせると、実に80%の学生が難しいと感じている。中国語の発音と聴解はどちらも中国語の音に係るものであり、同じ漢字文化圏の日本人学生にとって、⑤「中国語の漢字」は難しくないものと認識していることがわかる。また、初級段階で扱う中国語の文法や会話は総じて簡単なものが多いためか、②「中国語の文法」や⑥「中国語の会話」なども学生にとっては、それほど難しいものではないことがわかる。

設問5、あなたは初級中国語を受講してみて最も難しいと感じた部分はどこですか？

表5 最も難しいと感じた部分

項目	1年生	割合	2年生	割合	全体	割合
①発音	68	63%	14	54%	82	61%
②文法	6	6%	5	19%	11	8%
③聴解	19	18%	6	23%	25	19%
④読解	5	5%	0	0%	5	4%
⑤漢字	7	6%	1	4%	8	6%
⑥会話	3	3%	0	0%	3	2%
合計	108		26		134	

また、1年生と2年生の間にどのような相違点があるのだろうか。大きな違いは、①の「中国語の発音」と②の「中国語の文法」にある。1年生と比べ、中国語の発音が難しいと思う割合が9%ほど減っているのに対し、中国語の文法が難しいと思う割合が13%も増加している。つまり、学生たちにとって、中国語を継続的に勉強していくうちに、発音が難しいと思う人が減り、その代わりに文法が難しいと思う人が増えたということになる。この結果は、ある意味非常に当然なものである。つまり、発音に関しては、1年生の最初に導入し、そこで日本語とまったく違う音韻体系に出会う学生たちは難しいと感じざるを得ないのであろう。中国語授業において、ほぼすべての発音は初級初期で導入される。そして、発音の部分が一端終わると、そこからは会話や文法関係を中心に授業を進めることになる。発音が難しいとはいっても、関連知識の量そのものは決して多くなく、最初は慣

れないかもしれないが、授業が進むにつれ、徐々に慣れてくる学生も多い。一方、文法に関しては、初級こそ簡単なものしか扱わないが、勉強が進むにつれ、徐々に難しいものが導入されていく。2年生の学生たちにしてみると、ようやく少しずつ発音に慣れてきたところで、どんどん複雑な文法項目が導入されて行くため、難しいと思う学生の割合が増えてきたということであろう。

それでは、学生たちは、授業以外の勉強はどのようになっているのであろうか。設問6から10までは、授業以外のことについて聞いている。

設問6、あなたは自宅で中国語の勉強をしますか？

表6 自宅での勉強

項目	1年生	割合	2年生	割合	全体	割合
①しない	7	7%	0	0%	7	6%
②宿題のみ	72	75%	23	96%	95	79%
③目標設定	16	17%	1	4%	17	14%
合計	96		24		120	

例えば、表6を見るとわかるように、学生たちは、自宅では、中国語の勉強をまったくしない割合は6%で意外と少なく、自宅でも何らかの形（宿題79%、目標を設定して自分なりに勉強する14%）で勉強を続けていることがわかる。この結果は筆者の予想とは異なっていた。日本人の大学生は普段あまり勉強しないと言われている中、自宅でもきちんと勉強をしている学生が多いことは大変喜ばしいことである。ここで特に注目したい点は、②「宿題のみをする」というところである。つまり、きちんと授業の課題を出せば、9割以上の学生はきちんとやってくれる。教員が出した課題をきちんとこなすことは至極当然のことであるとはいえ、やはり殆どの学生がきちんと課題をやってくれることを生かし、授業中でしかやれないこと（例えば、発音チェックや会話練習など）と宿題にしてもよいこと（例えば文法練習など）などをきちんと区別し、授業内容と連携して、程よい量と質の宿題をやらせることは今後も必要不可欠である<sup>6</sup>。

また、学生たちは授業以外で、平均して週に何時間中国語の勉強をするのであろうか。

このことについては、表7をご覧ください。表7を見ると、授業以外の勉強時間が2時間未満と回答した学生が殆どであることがわかる。実際に中国語Ib、もしくは中国語IIbしか履修していない学生にとっては、週に1回しか授業がなく、そのため、課題も1度しかないことになる。そして、1回の課題でとても2時間以上も要するようなものではないため、実質殆どの学生は予習も入れて週2時間以内の勉強時間になるのはある意味当然の結果であろう。学生自ら勉強をしないで教員の課題のみをやっていたらよいという学生に

<sup>6</sup> しかし、課題に関して、1つ問題となるのが、毎週120名ほどの学生に課題を出させると、一人しかいない教員が毎週その全員分の課題をチェックし、フィードバックを行うのはかなりの重労働になる。課題と教員の仕事負担のバランスという点も考えなければならない。



対して、普段の勉強時間を増やすためには、課題を増やすことしか方法がないのかもしれないが、一方的に課題を増やすとよいという問題でもないと考えられる。他の授業の勉強時間や教員の負担なども考慮して取り組むべき問題であると思われる。

設問7、あなたは授業以外、平均して週に何時間、中国語を勉強しますか？

表7 授業以外の勉強時間

項目	1年生	割合	2年生	割合	全体	割合
①2時間未満	90	94%	22	92%	112	93%
②2～4時間	5	5%	2	8%	7	6%
③4～6時間	1	1%	0	0%	1	1%
④6時間以上	0	0%	0	0%	0	0%
合計	96		24		120	

設問8、あなたはNHKの中国語テレビ講座やラジオ講座を見ますか？

表8 NHKの講座勉強時間

項目	1年生	割合	2年生	割合	全体	割合
①ない	75	78%	12	50%	87	73%
②週1回	7	7%	2	8%	9	8%
③月1回	5	5%	4	17%	9	8%
④2、3ヶ月1回	9	9%	6	25%	15	13%
合計	96		24		120	

また、設問7と関連して、設問8のNHKの中国語関係の講座を見たり聞いたりするかという問題では、全体的に7割以上の学生が普段見たり聞いたりしないと答えている。しかし、2年生の学生は1年生と比べ、①の割合が28%も減っていることから、継続的に中国語を勉強している学生は授業外の中国語コンテンツにも興味を持つようになり、それを通して勉強するようになるということであろう。教員は、授業においては、授業外で利用できる学習コンテンツの紹介も積極的に行い、学生自ら授業外でも勉強するように働きかける必要があるであろう。

設問9、あなたは中国語を勉強することによって、中国人の友人が増えましたか？

表9 中国人の友人の増加

項目	1年生	割合	2年生	割合	全体	割合
①増えた	8	8%	4	17%	12	10%
②増えてない	88	92%	20	83%	108	90%
合計	96		24		120	



設問9は、中国語を勉強することによって、中国人の友人が増えたかについて聞いている。表9を見るとわかるように、全体的に割合は高くないものの、10%の学生が中国語を勉強することによって、中国人の友人が増えたと回答している。さらに、1年生と2年生を比べると、中国人の友人が増えたと回答した学生の割合が高くなっていることがわかる。これは、中国語を長く勉強しているから友人が増えたのか、それとも中国人の友人が増えたから長く続けられたのかは、表9の数値だけでは明らかでないが、いずれにしても、教員としては、中国人の友人ができるように授業内外において、中国人留学生との交流の場を提供していくことが重要ではないかと考える。

設問10は、設問9と関連して、周りの中国人と週に何時間程度中国語の会話練習をするかに関するものである。これを見るとわかるように、97%の学生が1時間未満と回答している。やはり日本という環境において、授業外の時間で目標言語の人と実際にコミュニケーションをとることが如何に難しいかということを変更して示すような回答となっている。実際に、設問9では、2年生になると中国人の友人が増えたとの回答率があがっているにも関わらず、週に1時間以上中国語を話す学生が一人もいないことを見ると、学生個人の裁量に任せてはこの時間数は増えないだろうと考えられる。設問9のところでも述べたように、授業外での中国語使用時間を増やすためには、交流会を行うなど、より一層の努力と工夫が必要であろう。

設問10、あなたは周りの中国人と週に何時間程度中国語の会話練習をしますか？

表10 中国人との会話練習時間

項目	1年生	割合	2年生	割合	全体	割合
①1時間未満	92	96%	24	100%	116	97%
②1～2時間	3	3%	0		3	3%
③2～3時間		0%	0		0	0%
④3時間以上	1	1%	0		1	1%
合計	96		24		120	

設問11、あなたにとって、成果のある中国語学習とはどのようなものですか？

表11 成果のある中国語学習

項目	1年生	割合	2年生	割合	全体	割合
①単位	0	0%	8	8%	8	6%
②A以上	1	4%	10	10%	11	9%
③交流	17	68%	64	62%	81	63%
④資格	6	24%	14	13%	20	16%
⑤コンテスト	0	0%	2	2%	2	2%
⑥海外研修	0	0%	1	1%	1	1%
⑦その他	1	4%	5	5%	6	5%

合計	25		104		129	
----	----	--	-----	--	-----	--

設問11では、学生たちにとって、成果のある中国語学習とはどんなものかを聞いている。その結果を表11にまとめているが、表11を見るとわかるように、③の「学習した中国語を使って中国人とコミュニケーションができればよい」を選んだ学生が一番多く、1年生と2年生の間でも大きな差は見られない。その次が、④の「中国語検定など資格を取得すること」である。

このことは、設問3の、中国語の何を勉強したいかという質問の回答と呼応しているように見える。つまり、最も勉強したいのが中国語の会話であり、そして、それを使って中国人とコミュニケーションをとれば、成果のある中国語学習だと認識しているということであろう。

設問12、あなたは中国語の授業を中国語で受けていますか？日本語で受けていますか？

表12 授業言語

項目	1年生	割合	2年生	割合	全体	割合
①中国語	4	4%	1	4%	5	4%
②日本語	35	36%	5	21%	40	33%
③半分ずつ	59	60%	16	67%	75	61%
④その他	0	0%	2	8%	2	2%
合計	98		24		122	

設問12は、授業言語についての質問であるが、表12を見るとわかるように、61%の学生が、半分中国語、半分日本語で受講したいと回答している。また、日本語だけと回答した学生が33%で、中国語で受講したいと回答した学生は、4%しかいなかった。

中国の大学では、授業を受ける学生の国籍や母語も異なるという事情があるため、中国語を使って中国語の授業を行う、いわゆる直接法も多く用いられるが、日本の大学における中国語の授業では、直接法の使用は特に初級の段階では難しいと思われる。実際に、直接法で授業を受けたいと思う学生は4%しかおらず、殆どの学生は、教室での共通言語である日本語の使用を望んでいる。

設問13、この大学で初級だけでなく、中級・上級の中国語クラスがあったら受講しますか？

表13 中上級クラスの受講

項目	1年生	割合	2年生	割合	全体	割合
①しない	21	22%	1	4%	22	18%
②中級まで	22	23%	6	25%	28	23%
③上級まで	17	18%	8	33%	25	21%
④まだ不明	36	38%	9	38%	45	38%

合計	96		24		120	
----	----	--	----	--	-----	--

設問13では、本学において、中上級の中国語クラスがあった場合、受講するかを聞いている。そして、表13を見ると、項目④の「まだわからない」が最も多い、38%で、一番少ないのは項目①の「受講しない」の18%である。項目②と③で中上級の授業があった場合、中級までもしくは上級まで目指したいと回答した学生はそれぞれ23%と21%で、合計44%の学生がさらに上を目指したいと答えている。

また、1年生と2年生の間で大きな違いとして見られるのが、項目①の「受講しない」という点である。1年生は、アンケート調査の時点で、中上級があっても受講しないと回答した学生が22%であるのに対し、2年生はたったの2%であり、学生の数でいうと24人中1人のみである。実際に、1年生で、項目①を選んだ人の理由を見る（設問14）と、「初級で十分である」や、「中国語の基礎知識だけを知りたい」、「発音が難しい」などが多かった。また、1年生、2年生で項目④を選んだ理由を見る（設問15）と、全体的に、「他の授業の課題で忙しいので、中国語の予習・復習に時間がない」が多く見られた。

それでは、設問13で、②と③を選んだ学生は、それぞれ中上級で最も伸ばしたい中国語能力とは何であろうか。これについては表16をご覧ください。

設問16、質問13で、「②、③」を選んだ人は、もしあなたが中級・上級中国語を履修するならば、最も伸ばしたい中国語能力は何ですか？

表16 中上級で伸ばしたい能力

項目	1年生	割合	2年生	割合	全体	割合
①会話	36	38%	17	41%	53	39%
②聴解	16	17%	9	22%	25	18%
③読解	12	13%	4	10%	16	12%
④作文	9	9%	3	7%	12	9%
⑤文法	7	7%	4	10%	11	8%
⑥検定	10	10%	3	7%	13	9%
⑦異文化理解	6	6%	1	2%	7	5%
⑧その他	0	0%	0	0%	0	0%
合計	96		41		137	

表16を見るとわかるように、やはり項目①の「中国語の会話能力」を伸ばしたい学生が最も多く、1年生と2年生で共通している。この点は、先ほどの設問3（最も勉強したい内容）と設問12（成果のある中国語学習とは）と関連している。現在の学生たちは中国語の4技能（聞く、話す、読む、書く）の中で、最も重視しているのが「話す」能力であることを改めて確認できる。

#### 4. まとめと今後の課題

本研究では、2016年度後期開講の中国語ⅠbとⅡbを受講している学生を対象に、中国語学習に関するアンケート調査を実施し、学生の中国語学習の実態を明らかにした。結果に関しては、3節で設問ごとに解説をしているが、全体的に次のような特徴が浮かび上がった。

まず、設問3、11、16の結果からわかるように、学生たちにとって、中国語の4技能のうち、最も勉強したい内容は中国語の会話能力であり、そして実際に学んだ中国語を使って中国人とコミュニケーションをとることを成果のある中国語学習だと認識している。そして、1年生、2年生で4割超の学生が中上級の授業を受講したいと回答しており、中上級のクラスでもさらに中国語の会話能力を伸ばしていきたいと述べている。学生たちの中国語コミュニケーション能力への志向性が高いことが確認できた。

また、設問7、8、9、10などの結果からわかるように、授業時間外での学習時間が短いこと、中国語を勉強しても中国人の友人があまり増えていないこと、周りの中国人と中国語を使って話しをする機会が少ないことなどが課題として見えてきた。

今後は、このアンケートで明らかになった学生の学習実態を踏まえ、授業時間内での中国語学習と授業時間外での中国語学習を両輪としてバランスよく行えるよう、留学生交流会の実施や中国語学習コンテンツの紹介などをはじめ、さまざまな方面からアプローチをしていきたい。また、中国語教材の作成にも本研究で得られた知見を活用していきたい。

一方、本研究の課題として、次のようなことがあげられる。

設問2で言及したように、質問項目に偏りがあることで、偏った分析結果に繋がってしまう可能性があるという点である。今後同じような調査を行う際には質問項目の精査をはじめ、学生たちが本音を書きやすいアンケート作りを心がけていきたい。

#### 【参考文献】

- 陳激(2011)「第二外国語としての中国語教育について—その課題と方向性—」『東北公益文科大学総合研究論集』第21号、1-14.
- 王志英(2005)「大学における初級中国語の教授法について」『沖縄大学文学部紀要』第6号、53-64.
- 王蕊(2011)「APU中国語学習への自立学習支援の必要性—中国語学習者の学習実態の調査研究報告—」『ポリグロシヤ：言語と言語教育—アジア太平洋の声』第20巻、129-143.
- 張軼欧(2008)「初級段階の中国語学習の意欲向上を目的とする授業法の開発とその実践報告—教養語学を中心に—」『関西大学外国語教育フォーラム』第7号、57-76.

#### 【付記】

本研究の調査にご協力いただきました皆様に深謝いたします。また、本稿は平成28年度大分県立芸術文化短期大学特別枠研究費による研究成果の一部であります。

#### 【資料】

このアンケートは本学の中国語教育の現状と課題を把握することを目的とした調査で

す。皆様のご協力は中国語教育の向上のために、非常に重要です。調査結果は個人が特定できない形で、学術研究および本学の中国語教育の改善に利用されます。なお、本調査は皆さんの成績と評価にはまったく影響がありません。ご協力に心より感謝いたします。

★下記の質問に対し、最もあてはまる答えを1つだけ選び、○をつけてください。  
(問題2と3は複数選択可)

学科：

学年：

1. あなたはいつから中国語を勉強したいと思いましたか？

- ①大学入学前
- ②大学入学後

2. あなたはどのようにして中国語を勉強したいと思いましたか？

(複数選択の場合は、順位をつけてください)

- ①先輩に勧められたから
- ②中国の文化に興味を持っているから
- ③就職活動に役に立ちそうだから
- ④将来、中国語を活かす仕事をしたいから
- ⑤中国の経済に興味を持っているから
- ⑥中国に留学したいから
- ⑦友人、親戚に中国人がいるから
- ⑧その他 ( )

3. あなたは中国語の「何」を勉強したいと思って、この授業を受講したのですか？

(複数選択の場合は、順位をつけてください)

- ①中国語会話
- ②中国語文法
- ③中国語聴解
- ④中国語読解
- ⑤中国語や中国人、中国社会に関する情報、知識
- ⑥その他 ( )

4. 実際に学びたい内容と現在の学習成果のギャップがありますか？

- ①ギャップを感じない。
- ②ギャップを感じる。(差し支えなければ、どこが不十分だったかを教えてください)  
( )

5. あなたは初級中国語を受講してみて最も難しいと感じた部分はどこですか？

- ①中国語の発音（ピンインも含む）
- ②中国語の文
- ③中国語の聴解
- ④中国語の読解
- ⑤中国語の漢字（簡体字）
- ⑥中国語の会話

6. あなたは自宅で中国語の勉強をしますか？

- ①しない
- ②宿題のみをする
- ③学習目標を設定し、自分なりに勉強をする

7. あなたは授業以外、平均して週に何時間、中国語を勉強しますか？

- ①2時間未満
- ②2時間以上～4時間未満
- ③4時間以上～6時間未満
- ④6時間以上

8. あなたはNHKの中国語テレビ講座及びラジオ講座を見ます（聴きます）か？

- ①見た（聴いた）ことがない
- ②週に1回程度見る（聴く）
- ③月に1回程度見る（聴く）
- ④2、3ヶ月に1回程度見る（聴く）

9. あなたは中国語を勉強することによって、中国人の友人が増えましたか？

- ①増えた
- ②どちらとも言えない

10. あなたは周りの中国人と週に何時間程度中国語の会話練習をしますか？

- ①1時間未満
- ②1時間以上～2時間未満
- ③2時間以上～3時間未満
- ④3時間以上

11. あなたにとって、成果のある中国語学習とはどのようなものですか？

- ①単位を取得すればいい
- ②総合評価はA以上を取得すればいい
- ③学習した中国語を使って中国人とコミュニケーションができればいい

- ④中国語検定など資格を取得すること
- ⑤中国語によるスピーチコンテストやカラオケ大会などイベントに参加すること
- ⑥イメージプログラムやフィールドスタディなど海外研修に参加すること
- ⑦その他 ( )

12. あなたは中国語の授業を中国語で受けてみたいですか、それとも、日本語で受けてみたいですか？

- ①中国語
- ②日本語
- ③半分中国語、半分日本語
- ④その他 ( )

13. この大学で初級だけでなく、中級・上級の中国語クラスがあったら受講しますか？

- ①受講しない（初級だけで十分）
- ②中級まで受講したい
- ③上級まで受講したい
- ④まだ分からない

14. 質問「13」で、「①」を選んだ人はどうしてそう思いますか？

- ①単位が十分である（初級で十分である）
- ②留学・兵役・卒業・就職活動などの事情がある
- ③発音が難しい
- ④文法が難しい
- ⑤漢字が難しい
- ⑥他授業の課題で忙しく、中国語の予習・復習に時間がない
- ⑦授業の進度が速すぎる
- ⑧授業内容が実用性に欠けている
- ⑨先生の指導に満足できない
- ⑩中国語の基礎知識だけを知りたい
- ⑪ほかの外国語を勉強したい（例：英語、韓国語）
- ⑫課題や小テストが多すぎてついていけない
- ⑬その他 ( )

15. 質問「13」で、「④」を選んだ人はどうしてそう思いますか？

- ①単位が十分である（初級で十分である）
- ②留学・兵役・卒業・就職活動などの事情がある
- ③発音が難しい
- ④文法が難しい
- ⑤漢字が難しい



- ⑥他授業の課題で忙しいので、中国語の予習・復習に時間がない
- ⑦授業の進度が速すぎる
- ⑧授業内容が実用性に欠けている
- ⑨先生の指導に満足できない
- ⑩中国語の基礎知識だけを知りたい
- ⑪ほかの外国語を勉強したい（例：英語、韓国語）
- ⑫課題や小テストが多すぎてついていけない
- ⑬その他（ )

16. 質問「13」で、「②、③」を選んだ人に聞きます。もし、あなたが中級・上級中国語を履修するなら、最も伸ばしたい中国語能力は何ですか？

（複数選択の場合は、順位をつけてください）

- ①中国語の会話能力
- ②中国語の聴解能力
- ③中国語の読解能力
- ④中国語の作文能力
- ⑤中国語の文法能力
- ⑥中国語検定試験対策
- ⑦中国や中国文化への異文化理解能力
- ⑧その他（ )

17. 新しい教科書を作る予定です。教科書に「芸短」「大分」関係のものを入れるとしたら、どんな内容を入れたらよいと思いますか？（できるだけ多く挙げてください。）

ご協力、ありがとうございました。